

令和 8 年 8 月 17 日

美咲町教育委員会
教育長 藤原 敬三 様

評価者 服部 康正
(岡山大学大学院 教育学研究科)

「美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」に関する所見

I はじめに

「令和 7 年度事業対象の美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」について、外部の第三者としての視点で検討評価させていただいた。本年度は第三次美咲町教育振興基本計画（令和 3 年度～令和 7 年度）の 5 年目、最終年度に当たる。その観点から美咲町教育委員会が所掌する膨大な範囲の事業の中で学校教育に重点を置いた執行状況について関係資料の提供を受けた。教育委員会と学校が密に連携・協力・工夫し、鋭意努力され、その内容がほぼ達成できていることを高く評価したい。

第三次美咲町教育振興基本計画で示された美咲町内全小中学校において中央地域、旭地域、柵原地域それぞれを小中一貫教育校に指定し、義務教育期間 9 年間に一貫性のある教育を研究・展開をしていく重点施策の中で義務教育学校旭学園、柵原学園が開校している。

II 教育委員会の組織及び活動について

教育委員会の活動は、定例会議のほか研修会への参加、3 回に分けての学校訪問など精力的に実施されている。前年度同様全ての学校・園・図書館を訪問し、現場を知ろうとする細かな配慮を感じる。会議の内容は、教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理、予算決算事務、就学、教育振興基本計画、義務教育学校、教育課程、学校の様子、学力状況等多くの議題が、十分な時間をかけ、必要に応じては指導主事等を加えて審議・協議ができている。

III 教育委員会が管理執行する事務について

1 基本的・総務的事務

教育行政重点施策の策定等、基本方針の多くは事務局が原案や資料を提出し、教育委員会として協議や審議を行い、美咲町教育振興基本計画を基に年度ごとに重点方策を設けて推進してきている。また、近年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正等に伴い、必要と考えられる規則等について積極

的に制定・改正を行っていることを評価する。

旭地域に令和５年度、柵原地域に令和６年度義務教育学校が創設された。これに先立ち、令和２年度から美咲町内全小中学校において中央地域、旭地域、柵原地域それぞれを小中一貫教育校に指定し、義務教育９年間に一貫性のある教育を研究・展開していくことを重点に取り組んでおられたことを高く評価したい。

この構想の基、令和５年度から開校している旭学園、令和６年度から開校している柵原学園の実践や地域の方たちの取組が、町内外から高い評価を受けていることも周知のとおりである。中央地域の小中一貫教育校の充実も期待しているところである。

２ 人的管理に属する事務

県費負担教職員の人事については、津山教育事務所と連携を図りながら、喫緊の課題である学力向上や問題行動の解決に向けた学校組織の強化は重要である。個々の教職員の学級経営力向上や指導力向上に向けて研修の充実が極めて必要なことである。校内だけの研修に留まらず、校外における研修の機会の提供や学校と教育委員会とが連携し、有益な研修を引き続き行っていたきたい。

また、今までになかった新たな問題や教職員の多忙化の対応など多岐にわたる課題に対し、校長、教頭の手腕が問われる場面は多い。その意味でも今日の学校運営は、管理職の能力とともに学校と教育委員会とが密に「情報共有」し、連携しながら、ケースによっては支援を、必要によっては指導助言等を行うことが重要と考える。

特別支援教育を充実していくことはとても重要である。そのための体制づくりをしっかりとすることが基本であるが、指導を要する児童・生徒を目の前にした時、県費負担教員の配置基準による教員数だけでは指導しきれない場合、適切に町費による教育支援員の配置・負担を行っていることがすばらしい。

Ⅳ 主要事業の点検評価について

美咲の学校教育グランドデザインは基本目標「自ら学び 共につながり みんなの夢を育む 美咲の人づくり」に向け、重点施策『小中一貫教育の推進』の中に英語教育の充実という新たな取組みも設け、「自立 共生 郷土を愛する心」を育み、美咲町の「ひと 輝くまち みさき」を実現しようとしている。いつも思うことだが、この１枚物のグランドデザインや美咲 Five Dreams プランはとても分かりやすいシートになっている。

1 重点施策

(1) 小中一貫教育の推進

○乗り入れ授業は全校で実施できていて、小中一貫教育の推進が図られている。

また、各校で郷土学習の開拓として生活科・総合的な学習の時間を中心に新たな教材を開発し、実施してきている状況もよい。

探求的な学習の推進では生活科・総合的な学習の時間を中心に、探求的な学習の推進を図ることができているなど成果があげられる。今後も探求的な学びがさらに深まっていくことを望む。

○キャリア教育の推進では例年実施されている令和 7 年度美咲町生活学習アンケートの結果は「自分にはよいところがある」小 92%中 89%、「課題解決に取り組む」小 92%中 88%、「友達と仲良く助け合う」小 98%中 97%「将来の夢や目標を持つ」小 91%中 77%とどの設問項目も昨年度より高い数値を示している。小学校においては全ての項目で 90%を超えている。中学校も高い数値結果で安心できる。

○コミュニティ・スクールの推進では、地域とともにある学校づくり、地域と学校の一体的な推進、各学校運営協議会実施を目標として充実が図られている。地域での活動が効果的な実践につながっていることや、学校の諸問題・今後の方針について熟議がおこなわれ具体の取組が実践できていることなど効果を上げている。

2 基本施策

(1) 確かな学力プラン(知)

①授業改善の推進・学力向上の支援

令和 7 年度は美咲町生活・学習状況アンケートの「授業の内容はよくわかる」の肯定率は小学校・中学校とも昨年度を上回っている。授業に改善が見られた結果である。その中で唯一中学校の英語が肯定的回答率の低下が見られた。ここは今後の課題として対策が必要である。

小中学校ともに、めあて・話し合う活動・振り返りの肯定的回答率が 90%を上回った結果をみると、授業づくりが着実に定着してきていることがうかがえる。

②家庭学習の習慣形成及び読書の習慣形成の推進

学校での授業が充実してきているのに、家庭学習の時間については残念ながら年々今年度も「平日家庭学習を 1 時間以上」するが小学校 6 年も中学生もマイナスの結果になっている。現状からすると児童生徒にゲームやスマホ等の時間を減らすことは難しいと考える。ではどうすれば

よいか。児童生徒自身が学ぶことが楽しいと実感できるようにすることだろう。自分で計画を立て自分なりの学びの時間を増やしていくしか方法はないように思う。また、保護者はスマホを持たせる時、使い方を児童とよく話し合っておくことが大切と思う。保護者に十分認識してもらい、学校と家庭が協働した取組をおこなうことが重要と考える。児童生徒のよりよい生活習慣を願うばかりである。

読書に親しむことが難しい時代であるが、読書は人生を豊かにしてくれるものなので、読書活動の推進は引き続き頑張っていたきたいと思う。

③特別支援教育の充実

特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりをするために、全小中学校で校内研修を実施し、講師派遣や専門機関との連携も精力的にできている。個別支援指導計画の作成 100%、個別計画の点検整備の実施も素晴らしい。

④情報教育の推進

令和 7 年度美咲町生活・学習アンケート「1 日 3 回以上タブレットを活用した授業」の目標には届いていないが、中学校の活用が増えたことは喜ばしいことである。デジタル教科書を積極的に活用していることも高く評価したい。

⑤郷土学習の充実

全ての小中学校で郷土に関する総合的な学習が意欲的に取り組めていることがとても素晴らしい。また、地域活性化へ向けた探求的な学習の成果が全ての学校でみられていることも素晴らしい。それには教員が課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識して指導しているからだと考えられる。また、美咲町の取組として、地域学校協働活動推進員の活躍が見逃せない。この方々と綿密な打ち合わせをおこない、地域の協力を得て郷土学習の充実が図られていることが大きな特徴である。

⑥英語学習の充実

昨年度も記述したが、英語交流等を通した英語力・発話力の向上を図る取組を高く評価したい。英語を学んで実際に自分から英語を用いて会話する機会は極めて少ないからである。そのことを考えると非常に進んだ取組と言える。また、交流事業(土佐山学舎)に前年度の倍以上の生徒 27 名が参加し、充実していることも素晴らしいことである。英語力の向上と国際感覚の育成などを考えている美咲町はとても充実していると思う。

⑦保小接続の推進

架け橋カリキュラムの重要性が叫ばれている。不登校の問題、学校不適

応の問題もこの接続が重要と考えられているからである。年3回の担当者会や年間の保小交流や授業、保育実践の参観・体験研修を実施したことや小学校ごとに保育体験や参観を行い、次年度のスタートカリキュラムを作成・実施できていることを高く評価したい。

(2) 豊かな心プラン(徳)

①人権教育・道徳教育の充実

日頃から人権意識をもち、人権感覚を高める環境の整備は大切である。令和7年度も人権週間に合わせ、全校で道徳の授業公開を行ったこと、人権標語や人権ポスターの募集など実施できている。

②協働的な人間関係づくり

質問紙調査「hyper-QU」で学級満足度・学校生活度尺度・ソーシャルスキル尺度を用いての客観的データを活用することは、学級経営、人間関係づくりでは有効である。その結果、適応感の集計で「学校生活意欲」「配慮のスキル」「かかわりのスキル」の各適応感がほとんど全国平均を上回っている。良好な学校、学習環境の中で生活できていると捉えることができる。

児童会、生徒会のあいさつ運動は今後も続けていきたい。地域、保護者も巻き込んでのあいさつ運動を実施した学校も見られたことは喜ばしいことである。

③いじめ・不登校の対応

いじめの校内認知件数は小学校11件で解消は9、中学校2件で解消は1、学校は解消に向け相当頑張ったと推察できる。しかし100%にはなっていない。引き続き100%のいじめ解消率を目標に掲げ、頑張っていたきたいと言うしかない。

いじめ・不登校の対応には学校全体で夢育の推進、教職員一人一人が授業や一日の学校生活の中で発達支持的生徒指導の働きかけの励行と4つの観点を取り入れた授業を実践することが大切と思う。

教育委員会、学校とも細やかにいろいろな対応策で取り組んでいただいていることは重々承知している。今後ともどうか粘り強く頑張っていたきたい。

(3) 健やかな体プラン(体)

①生活習慣の確立及び健康教育の推進

基本的な生活習慣の確立で大切なことは、時間を守り、朝食は勿論3食をしっかりと、十分な睡眠をとることである。令和7年度全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べる」結果では、小95,7%、中93,9%と非常によい数値であった。ところが令和7度美咲町生活・学習アンケート「一

日の睡眠時間」は小 8 時間以上小 50,2%、中 7 時間以上 66,1%と中学校は改善傾向にあるとはいえ、小学校の半数が目標睡眠時間をとれていない状況である。特に睡眠時間の確保が体調維持には重要と考える。これは健全な発育・発達を考えると重大な問題である。子どもにとって十分な睡眠時間の確保こそ大切なのであるから、引き続き取組を粘り強く取り組んでほしいと思う。

スマートフォンでのゲーム、動画など利用時間が増えることは、児童生徒の健康を考えると睡眠時間が減るので好ましいことではない。学校だけでは無理なので、家庭のルールづくりが大切ある。

②体力・運動能力の向上

昨年度は小学 5 年男女共低く、中学 2 年は男女共に高い。今年度は反対に小学校が男女とも県を上回り、中学校が男女とも低い。昨年度とはまるで違う。この項目は年度が違えば、或いは学年、対象者が違えばこれほど結果が違うということをまた改めて認識した。

(4) 美咲町立学校教育職員の働き方改革

昨年度同様本年度も学校教職員の働き方改革の応援・支援・推進を美咲町教育委員会は真摯に受け止め、指導や設備の整備・業務支援等をしていただいている。

その中身は「美咲町立学校における働き改革ワークスタイルプラン」に示されている。学校閉庁日の年 14 日実施、定時退庁日の月 1 回以上の実施、業務記録システムの活用により月ごとの時間外在校時間を把握・指導、総合型校務支援システムによる成績処理等の業務支援、SC や町費支援員等の学校課題に応じた専門スタッフ等の導入、地域学校協働活動や学校運営協議会制度による学校を応援・支援する体制づくり、「美咲町部活動の在り方に関する方針」に沿う部活動休養日等の適正な実施、音声ガイダンス対応による保護者対応等の時間の軽減、メール配信システムによる保護者等への緊急時等の連絡・広報の円滑化などである。

このような町教育委員会のフォローがあり、1 年間を通じ、超過勤務時間平均 45 時間を全学校で下回ることが達成できている。だからこそ各々の教員は、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動を行うことを頑張ってもらいたい。

V おわりに

美咲町には中央地域、旭地域、柵原地域の 3 つがある。以前旭地域は旭学園

のことをへき地教育研究会で、柵原地域は柵原学園のドリーム学で称賛してきた。中央地域は中央中学校が生徒指導の 4 視点を取り入れた授業で成果を上げていると聞いている。

このようにそれぞれが特色を発揮し、教育活動を展開していくことがとても大切である。「**地域にへき地あれど 教育にへき地なし**」という言葉がある。まさに美咲町はこの言葉を体現していると思うのである。この精神だけは今後どのような環境になろうとも持ち続けていただきたいものである。

今、国の方では次期学習指導要領の論点整理が頻繁に行われている。それに合わせたかのように美咲町も「第四次美咲町教育振興基本計画」が策定され、今年度から実施されている。「第三次美咲町教育振興基本計画」で示されたことを着実に実施してきたように「第四次美咲町教育振興基本計画」でも実行していってほしい。

今回で私は 5 回目の評価をさせていただいたが、昨年度同様美咲町教育委員会及び美咲町の教職員が、真摯にしかも全力でその職務に取り組んでいることを確認でき、その取り組み方、姿勢に心から敬意を表したい。

毎回同じ言葉になるが、郷土美咲に誇りをもち、未来をきり拓いていく子どもたちが力強く、生き生きと育っていくことを切に願っている。